市原市八幡

市川本店文書

自治団体之沿革

昭和３年

八幡地区人物

平成３１年３月

市原の古文書研究会

八幡史学館チーム

青年團体發達史

徐田豆民著

東京都民新聞社編纂

現に丸豐田兩村耕地整理組合長として貢献する君は、前に學務委員、收入役、助役、村長、村會議員、其他の公職を帶びて功勞を謳はれた。表彰及感謝狀の重なるものに曰く、

△石井由藏君　本村學務委員ニ擧ゲラルヽコト前後十數年能ク其職務ニ盡瘁セラレ以テ今日ノ成績ヲ見ルニ至ル仍テ銀盃一個ヲ贈呈シ聊カ慰勞ノ意ヲ表ス、大正五年五月二十七日、安房郡豐田村。

△表彰狀　安房郡豐田村石井由藏、氏ハ夙ニ農業ニ從事シ村治ニ携ハルコト多年常ニ產業發展ヲ圖リ治績大ニ見ルベキモノアリ而シテ農業水利ノ完備ニ就テハ特ニ意ヲ致シ村ノ內外ヲ論セズ人ノ如何ヲ問ハズ苟モ農業ニ關係アルモノニ對シテハ言必此事ニ及ベリ、殊ニ丸豐田南三原三ケ村聯合ノ溜池設置ニ關シテハ力說スル事久シ數次組合ノ設立ニ着手シテ成ラズ而カモ其意志愈々堅ク東奔西走苦心慘澹實ニ三十有餘年漸ク大正七年ニ至リ丸豐田耕地整理組合ヲ組織シ同年十一月之ガ設立ノ認可ヲ得擧ゲラレテ組合副長ノ職ニ就キ再來拮据經營ノ衞ニ當ルコト正ニ九ケ年今ヤ工事全ク成リ廣ク世ニ其範ヲ示サル功績洵ニ大ナリト謂ツベキナリ仍テ本會ハ銀盃一個ヲ贈呈シ茲ニ之ヲ表彰ス、明治二年四月二十二日、安房郡耕地整理組合聯合會長鈴木爲司。

△感謝狀　丸豐田耕地整理組合副長石井由藏農業ヲ開發シテ收獲ノ增加ヲ圖ルハ灌漑水ノ完備ヲ期スルニアリ君夙ニ茲ニ意ヲ注ギ曾テ丸豐田南三原聯合ノ溜池設置ヲ計畫シ東奔西走力說セラレシモ不幸中止ノ止ムナキニ至レリ再來志益々堅ク新ニ丸豐田耕地整理組合ヲ組織シ大正七年十一月設置認可ヲ得推サレテ組合副長ノ要職ニ就カレ以來奮勵努力組合員ノ圓滿ヲ圖リ工事ノ監督ニ力メラルヽコト茲ニ九ケ年本日竣工ヲ見ルニ至レリ是實ニ君ノ偉大ナル努力ノ賜ニ他ナラズ仍テ本組合ハ時計一個ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス、昭和二年四月二十二日、丸豐田耕地整理組合。

因に內助の譽れ高き令閨たけ子氏との間には二男二女を擧げ家庭團欒和氣靄々としてゐる。長男重藏氏は現に西原區長代た理者を勤めてゐる。

元村長

石井由藏

豐田村西原五五九

昭和參年參月貳拾五日印刷
昭和參年四月　壹　日發行

自治團體之沿革（奥附）

不許複製

發兌

東京市下谷區西町二番地

編輯兼發行人　篠田雀　東京市下谷區西町二番地

發行所　東京人事調査所　東京市下谷區西町二番地　電話下谷二二七一番

印刷人　吉岡源造　東京市下谷區西町一番地

印刷所　同工會印刷所

東京都民新報社

政治思想に於て農村振興の抱負に於て卓見の君は村内の主腦として缺くべからざる樞要の士である、安政六年三月五日を以て現所に出生彌助氏の男である。幼少より奇才の士として知られ、村内の改革に向上に誠意を以てした明治二十七年十一月助役に推擧され、翌年一月まで、後村會議員、區會議員、消防部長、氏子總代等を歷任し幾多の功績を修めて村民に尊敬を多く、數回に亘つて村長候補に擧げらだが君の主意の上から之を排した。君の施政に對する理想は實に遠大にして村政の上に一大異彩を放ち將來期待されてゐる。士であるる。最近貯金會を起し、農民貯蓄法を奬勵し、村民の福利を計つてゐるが、君はまた書畫に深く親しみ幸福と平和に餘世を送つてゐる。令閨をくま子氏といひ、一男一女を擧げたが、令息は逝去した。

元郡會議員
島田辰之助
野田村

東京市日本橋區小網町三丁目廿七番地
直輸出入商
濱口商事株式會社物產課
電話 (66) 六七五番 二〇二番
茅場町 二〇一番 二〇三番

市原郡誌と名譽錄

市原郡自治功勞者

村老養　村老養　村老養　村老養　村老養　村老養

平昌卷兼　郎三德間久佐　郎太延村中　治國藤內　藏熊藤伊　郎次長森

村老養　村老養　町久牛　町久牛　町久牛　町久牛

吉源野芳　郎三忠卷兼　行義地岩　七與藤伊　之信岡鶴　行安山中

町久牛　町久牛　町久牛　町井五　町井五　町井五

夫民岡鶴　一太關　光之代藤　郎太金田濱　門衛左新川相　次周間久佐

町久牛　町久牛　町久牛　町久牛　町久牛　町久牛

郎三敬野星　郎誠男長郎太勝榮若　雄光原市　郎太勝榮若　郎三代千谷桐　郎吉代藤

市原郡自治功勞者

村田内 治正藤近
村見里 郎太發木鈴
村津濕 三保井今
村見里 利清邊田
村津濕 一精石高
村津濕 太幸山高
村田戸 長村田戸
村田戸 菊根關
村田戸 役助井五
村田戸 役入收井五
村田戸 造寛崎松
村田戸 郎敏中山
村田戸 量田宮
町井五 長町井五
町井五 藏三戸風
町井五 藏善野牧
町井五 三睦田池
村海東 造三根津
村海東 郎次常田時
村老養 藏貞藤齋
村上海 足和橋三
村海東 吉秀中山
村海東 清戸神
村海東 郎次長山渡
村海東 郎次亨藤齋

市原郡自治功勞者

村西市　村見里　村西市　町舞鶴　父堯貫町舞鶴　町舞鶴

雄義岐土　二源沼大　平恭出小　之義岡鶴　師貫神邊河　平郎四石高

長町舞鶴　村東市　長校女高舞鶴　町舞鶴　村原市　町舞鶴

郎太吉代藤　造郡葉秋　郎十喜田成　郎次菊森杉　吉政石建　吉種川安

村西市　村西市　長村田内　長校學小田内　村上海　村三平

抄　林　郎次源木鈴　作誠橋三　治亮越山　平文榮若　郎次角田角

村津濕　村津濕　長校學小海東　村西市　長校學小正大　長村東市

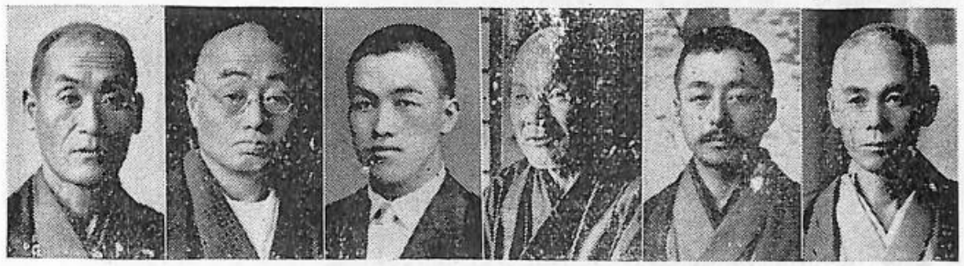
平恭鋪飛　操村中　英士川鮎　信友崎山　一謹田積　夫淳羽天

市原郡自治功勞者

村見里　村鳥白　村上海　村種千　村津濕　村津濕

郎三鐵原　治眞野秦　三文谷桐　作又出小　郎次伊澤吉　郎重佐澤吉

村鳥白　村津濕　村三平　村田内　村津濕　村見里



郎太龜出小　郎次禎本山　郎三章泉常　郎三菊崎宮　郎太市吉國　郎太由間久佐

村田内　村上海　村三平　村三平　村見里　村見里

有顯原栗　吉傳野立　郎次惣彌海鳥　治琴泉常　郎治平村木　郎太信田山

村西市　町舞鶴　村東市　村東市

治義塚大　安生園御　郎次彦内山　貴正山森

市原郡自治功勞者

市原郡誌

市原郡は面積二十三方里餘にして、八幡町等五ヶ町十六ヶ村に世帶一萬三千五百六十四、人口六萬九千九百二十一を有するに至つた。莚、叺、薪炭、海苔、梨、木材等の特産物を出す。

八幡町はもと郡役所の所在地で、千葉市を距る僅かに二里餘、東京灣に面してゐるが、海岸水淺くして船舶の寄航に不便である。房總線の支線木更津線が貫通してゐる。警察署、郵便局、區裁判所出張所がある。

鶴舞町は、郡の南方山間に位し、もと桐木臺と言つた一高原に過ぎなかつたが、明治元年遠江濱松城主井上正直が此地に移封されるに及び、新に市街を成すに至つた。警察分署、區裁判所出張所、郵便局縣立高等女學校がある。

八幡神社　縣社八幡神社は八幡町にあり、祭神は譽田別尊、息長足姫命、玉依比賣命の三座で、文武天皇白鳳三年、勅命に依り勸請したものである。後年源頼朝此に武運長久を祈願して以來、源氏相次いで崇奉したといふ。德川家康は黑印を以て社領百五十石を寄附した。明治六年鄕社に列せられ、明治二十六年更に縣社に列せられた。社殿壯麗にして内海に面し眺望も亦よい。社傍に一老銀杏樹がある周圍三丈許、高さ約七丈、一根にして二幹に分かれ、左幹にのみ乳房を垂下して、里人の陰陽合抱樹と稱する奇を成してゐる。

姉崎神社　姉崎神社は姉崎町大字姉崎字宮山にあり、志那斗辨命を祀り、日本武尊東征の時之を

創建したと傳へ、後日本武尊、天兒屋根命、寒神三柱命、大雀命を合祀するに至つた。明治六年縣社に列せらる。境内に末社二十一座あり、社地丘陵に位し、全丘老杉森鬱として社殿も壯麗である。

島穴神社　島穴神社は、東海村大字島野字島穴にあり、志那都比古命を祀る。命の妃が志那斗辨の命である。上總五社の一で、明治四年舊島野外十一ヶ村の鄕社となり、同十二年縣社に列せらる。社傳に言ふ、日本武尊東征の時之を創建し、景行天皇東幸に當り日本武尊及び倭比賣命を合せられたと。

西願寺阿彌陀堂　特別保護建造物として大正五年指定された阿彌陀堂は平三村の西願寺境内にあり、承平年中領主土橋平藏政常の建立する所であつた。堂宇は方三間單層屋根は寶形造の茅葺である。飛彈匠の弟子四郎三郎の手に成るものと傳へてゐる。

海水浴場　八幡町の海濱に海水浴場がある眺望開濶、波靜穩にして、八幡公園其附近にあり、古松鬱蒼として綠蔭深く、風光賞すべく、夏季は此地に暑を避くる都人士が多い。

海上潟　千種村大字今津朝山附近一帶の海濱を言つたもので、此地が古の海上郡即ち上菟上國である。萬葉集羇旅作歌及び東歌に海上潟を詠じて曰ふ

夏麻引、海上乃奥津洲爾、鳥者簀竹跡、君者者文不爲

奈都素妣久、宇奈加美我多能、於伎都渚爾、布爾波等抒米牟、佐欲布氣爾家里。

古の海上潟の内に今の姉崎町大字椎津の海濱、椎浦がある。西は海を隔てゝ豆相駿遠の諸山に對し、遙に富岳を望み、風光殊に明媚である。海水淺淺にして退潮のときは干潟となること一里ばかり魚貝が多い。源孝範の上總に在つた友に賜つた歌に、

しもはらふ椎の浦かぜ身にそめて海上潟に月を見るらん。

日本武尊遺跡　牛久町大字皆吉橘禪寺境内藥師堂の庭中に腰掛松が在る。高さ三尺に足らぬが、枝葉圓形の延長して直徑凡そ八間に亘り、其狀傘に似てゐる。寺傳に言ふ、本寺は橘媛の遺物を埋めたる舊蹟にして松樹のある處は日本武尊の休息し給ひし遺跡であると。

山田橋大櫻　市原村大字山田橋天神社前に在り、稀世の大樹で、里人は一重櫻と呼んでゐる。形狀蝙蝠傘の如く根本周圍は二丈、十六本の枝より成り繁茂せる周圍は約十六丈餘あり今より凡そ三百年前鎭守遷宮の跡に神木として植えたものであるといふ。開花の節より杖をひくものが多い。明治十二年村民相議して保護の法を設け、更に梅樹數十株を樹ゑ風致を添へた。墨染櫻も亦同所にあり、形狀村樹齡ほゞ一重櫻に同じである。

瓶塚　千種村大字今津朝山春日神社の西に墳狀の地がある。傳へて仁德天皇の時の將軍田道の墓といふ。墳内多く瓶を存するを以て瓶塚と呼び、人の敢て其上に登らぬ。史を按ずるに田道は伊寺ノ水内にて死した樣で、其他は陸奥であるから此處に墓のあるのは疑はしい。

菊間古墓　菊間村大字字平親王山に在り、三層にして高さ五尺ばかり、『應安第五十二月三日』等を刻してゐる。其他の文字は磨滅して讀む事ができぬ。傳へて言ふ平將門の墓であると、又將門の遺物を埋めし所にて後人の之を建てたものであるといふ。

鶴牧藩廳址　姉崎町大字椎津の東方に在り、面積一萬六千九百三十八坪、地勢平坦にして東北西の三方境川を繞し、南舊椎津城地に接してゐる。文政十年五月水野忠韶北條より移り此に築き、鶴牧城と稱し、傳へて忠順に至つた。明治二年六月鶴牧藩廳と稱し、同四年七月縣廳と改め、同十一月縣廢せられ其の址は田圃となつた。

鶴藩廳址　鶴舞町大字鈴舞に在り、此地はもと桐木臺と稱し、舊石川村に屬する一高原であつ

たが、原上平坦にして縱横十餘町、田尾川其西南麓を繞り東北は深谷之を劃して轍く登ることができない。明治元年十月遠江濱松城主井上正直藩廳及び居宅を建築し鶴舞藩と稱した。士族の從ひ移る者七百戸、商工の徒も亦來住して頓に市街ば開けた。同年六月歸籍を奉還し、同四年七月廢藩となり其址は今小學校となつた。

菊間藩廳址　菊間村大字菊間字雲境に在り、地勢丘陵を爲す、明治元年九月二十一日駿河沼津城主水野忠敬封土を上總に移されて居城を北の地に經營した。城の末だ竣成せざるに先だち二年七月菊間藩廳となり、同四年七月菊間縣廳と改められた。同十一月縣も亦廢せられ、其の址は畑地となつた。

國府址　市原村大字能滿にあり、和名抄、拾芥抄共に上總の國府市原郡に在りとなし、大字郡本八幡神社本地佛の銅盤に『上總國府中國應國御目代目高彈正朝光應永九年六月』と鐫した。又釋藏院寄附狀に府中云々とあり、而して村の中央字西宿、在宿の邊、道路平直、部落整齊してゐる。蓋し國府の墟址にして市原、門前、郡本等の部落は、當市井のあつた處であらう。字城山は國府の址なりといふ。一說に市原村太字總社はコクボを國府の址であるとも言ふ。

有木城址　市西村大字海士有木にあり、今田圃又は山林となり出形跡を殘さないが、本城、中城城手ノ下、堀ノ內等の地名を存してゐる。里傳に言ふ北條氏康の臣北條綱成がこれを守つたと。此地に一古墳及び古塔があり（今字塔の下に移す）往々古器の破片を出しまた石棺を發掘したことがあるといふ。寛永諸家系圖藤原氏の卷に『二階堂又太郎實綱上總蟻木在城之節討死』と記してゐる。本城或は實綱の城址にして古塔も亦其墓標であらう。

市原郡各町村沿革

八幡町　古の江田鄕の一部で、八幡の地名は旣に皇紀二千百年代には多く使用されて居る。德川時代に於ては旗本の支配下にあつが明治維新成り、元年十月に菊間藩に編入され、同四年廢藩置縣に依つて宮谷縣轄となり、幾許もなく木更津縣を置かれ、更に千葉縣に改り、同十一年千葉市原郡役所の所轄となり、戸長役場が舊八幡村に置いた。同二十二年町村制實施と共に八幡、五所山木の舊三ヶ村を合併して八幡町と改稱し、三大字に區劃して、以て今日に至る。町役場は大字八幡に在り、歷代町長は左の如し。

荻原昇吉　今井源藏　市川石三　高橋松太郎　林不美助
荻原藤吉　江澤信次　市川石三　宮吉長五郎　市川石三（現）

五井町　德川時代有馬氏倫が大字五井に陣屋を置いて地方の中心とした處で、其他代官、旗本等に分屬して明治維新に及んだ。明治元年十二月水野菊間藩主の所領となり、同四年廢藩置縣に際して木更津縣の所轄となり、同六年千葉縣の所轄に改り、同十一年千葉市原郡役所の管理となり、五井村戸長役場を置いたが、同十七年出津、岩崎、玉前の舊三村を聯合し、後二十年君塚、五井金杉外三ヶ村聯合となり、村上村は平田村と聯合して何れも戸長役場を置いたが、同二十二年町村制實施と共に五井村外舊七ヶ村を合併して五井町と改稱し、八大字に區劃して以て今日に至る。町役場は大字五井にあり。歷代町村長及戸長は左の如し。

立野良道詠草

うきめかるうきか中にも心ありてあまや波間の月を見るらん　（海月邊）

嬉しくもよの長人といはれけりやそちの春を今はむかへて　（八十になりける年の始に）

雄躍せる政客として縣下に令名高き君は、政友會支部幹事現に町長として一身に信頼を荷ふ敏腕家。施設經營に見るべきものが多い。町農會長等を兼ねてゐる。慶應元年十一月二十九日の出生。明治二十三年早稻田專門學校法科を卒業した。明治廿五年町會議員に選出されたのを初め、郡會議員、郡會議長、縣會議員等長年月に亘つて勤續功勞した。父君は戸長に推された名望家であつた。祖先は約二十餘代繁榮し、八幡神社の宮司を勤めた。もと譽田氏を稱したが、中興より公卿の居であつた市磨の館址に住するに及び改稱したといふ。現に君が承くる所となつた。君は千葉商業銀行頭取兩總電氣會社長成田電氣社長等實業界の重鎭。令閨は美代子慶大理財科出の長男達也氏外三男三女あり。（電話八幡二）

町長
市川石三
八幡町南町一〇三七

文化文政の頃から醬油釀造に發展し、

敏腕の收入役として現に重責に當る君は、前には助役として村治に貢献した人、町農會長、區長、國勢調査員等の公職に就いた。明治四年二月出生。故常吉氏の長男である。父君は君が四才の頃に逝去したので、祖父平八氏の愛育を受けた。祖父は多年戸長を勤めたといふ。君は塾に學んで中等適度の教育を修了した。家督を相續し、世襲の農業に從事して家運を興した。令閨たみ子夫人を宇津村士族高山家より迎えた。夫人は縣下有數の良教員の譽あり、女子師範の出身にして八幡小學校に三十二年間勤續し勳八等瑞寶章を賜はつた。中堅講習指導委員、郡教育會幹事、評議員に推された家庭は圓滿にして長男喜久夫氏、三男秀夫氏、長女光子氏の成人を見た。喜久夫氏は千葉中學校の出身にして家業一切を擔當して勤勉である。

收入役
野城清一郎
八幡町八幡一〇二三

有爲の人材として幾多期待さるゝ君は、大正十四年町會議員に選出されて熱誠以て活躍、益々信頼を厚うしてゐる。君は明治二十年二月二十八日出生、故大次郎氏の長男である。千葉中學校に學び、明治四十年卒業した。大正三年家督を相續した。地主として經營大に力めてゐる。君は時代を觀るに敏にして眞に人生を解する人、大分を小作人に與へて居るといふ。その識見の一端を知る事が出來る。その間に八幡消防第五部長、八幡五所漁業組合幹事として公共に盡瘁し來つたのである。その力量とこの抱負とを以て進出する君が前途は光明輝くものでなければならぬ。家庭は圓滿にして和氣靄々たるものあり、もよ子夫人の內助宜しきを得てゐる。夫妻には三女を惠まれた、長女ひさ子氏は千葉高等女學校出身の才媛なり。

町會議員
今井源內
八幡町五所一七四五

萬國環視の中に我國が大敵露西亞と雌雄を決した明治三十七八年戰役の回顧は、永遠に國民の胸裡に熱血を湧かしむるであらう。君の如きは其大戰に參加して肉彈以て進擊した殊勳者であり、功七級金鵄勳章を拜受するの光榮に浴した物語りの主人公として輝く面上に今も當時の奮鬪を偲ばしむるものがある。君は明治十三年三月十八日を以て故石五郎氏の長男として出生した。明治三十三年步兵第二聯隊に徵兵されたのであつた。かくて日露の國交急を告ぐるや明治三十七年三月九日召集されて第三軍に編入され乃木將軍麾下に一死報國が期して今日の榮譽を荷つたのである。凱旋後在鄕軍人分會の發達に貢獻し、副分會長一期を勤めたといふ。さて、家業は農を以て繁榮し、賢夫人の譽高き令閨きせ子氏と家庭の平和を樂しんでゐる。

元在鄕軍人副分會長
關本金造
八幡町五所一五一一

彈力を有する活動的な君が出所進退は甚だ痛快にして勇壯なるものがある。在鄕軍人分會長として適材適所の功業を謳はれてゐる。君は明治二十八年十一月の出生。潑溂たる生氣の壯年時代に在り縱橫無盡に敏腕を揮ひ、倦む事を知らぬ。大正四年近衛工兵大隊に入り同六年除隊した。やがて現職に推されたのである。今後に多くを期待さるゝ一人である。さて、君は當町高等小學校を經て南總中學校を卒業した秀才、早くから好青年として囑望された。十七才にして家督を相續し材木商を經營し、土木建築請負を兼ねて發展した。今日の非凡なるを發揮して功勞した。消防小頭等、誠心誠意君が職責を果した挿話も多い。

在鄕軍人分會長
白鳥幸治
八幡町一〇七三

公共事業に功勞して君が一門は悉く町內に名望を成すといふ即ち現町長市川石三氏は君が本家であるといふ。君は明治四年三月二十五日を以て吉次郎氏の次男として出生した。早くから自立自營を志して勤勞し、二十五才にして現所に居宅を構ゆるに至つた。令閨サク子夫人を迎え米穀商として功成し又干草生產總代として陸軍糧秣廠に納入して來た。二十六才にして郡干草組合長に推され現にその重責に任じてゐる。その間消防組合設立に功勞し小頭として十ケ年、部長として十ケ年、更に組頭として十ケ年貢獻大に力めた。かくて昭和二年縣の表彰する所となり賞狀並に金一封を拜受した。彼の大正震災に於ては醫師二名消防手二十名を率ゐて內務省社會局と協力し活躍したといふ。現に町會議員に推されその盡瘁を希望されてゐる。

町會議員
市川才吉
八幡町八幡九七六

内省して常に心中光明を感ずる事業は、男子の生涯を賭すに足る。名利の爲にするすべてを否定したい。そこに眞實に惠まれた社會が出現する事を信ずる。志操の堅固な君は、歩一歩己の一路を辿つて倦まぬのであつた。現に荒物商として經營大に力めて顧客の信用が厚い。又公共事業に盡瘁する所が多い。君は明治十六年一月七日の出生。柳川縫藏氏の次男で、千葉郡押名村の人。後に懇望されて德次郎氏の養子となり令閨政子氏との間に長女やす子氏一女を擧げた。やす子氏は千葉高等女學校出身の才媛である。君は明治三十五年兵として習志野騎兵聯隊に入つた日露戰役に出征した。殊勳あり功七級金鵄勳章を賜り勳八等に叙せられた。在鄕軍人分會理事等數期就任功勞した。

消防第一部長

宇田川泰治郎

八幡町觀音一三二九

愛鄕心の涵養は國策の大なるものでなければならぬ。鄕黨協力する自治政の發達は、人情の機微にふれた問題である。國民を一團とした生活力の根源である。君は大正六年町會議員に選出され數期勤續して、今日に至るもので、圓滿な人格を以て公明なる町治の遂行を期し、信賴の厚きを加へ來つたもので、將來に活躍を期待さるゝ一人である。現に五所區長を兼ねて功勞が多い。前には八幡漁業組合理事として產業振興に貢獻した。君は明治八年八月の出生。故傳藏氏の長男である。父君も町内の有志として多年公共事業に盡瘁したといふ。祖先は遠く八幡神社建設當時既に土地の居住者であつたといひ、約二十代を經たものゝやうである。尙令閨ふじ子夫人を迎え圓滿な家庭には千葉中學校在學中の長男傳藏氏外一男五女を擧げた。

町會議員

小出傳次郎

八幡町五所一四七九

靈腕と德望を謠はるゝ刀圭家として、君の生涯は誠に有意義であると言はねばならぬ。存在の價値なき生活者があまりに地上には多い。君は明治十一年十月二十日を先て先代良平氏の長男として現所に出生した。城北中學校を經て慈惠醫學校を卒業し、更に千葉市井上内科に研究する事四ケ年、歸鄕して開業するや忽ち名聲を擧げて今日の發展を遂げたのである。かくて千葉醫師會理事として三期間信任された。又千葉郡椎名學校醫等を依囑された。衆望を荷つて郡會議員に選出され輿論を代表して堂々立言した。現に町治に貢獻する所が多い。醫業の傍ら、上總電氣取締役として活躍してゐる。令閨をよし子夫人と呼ぶ。家庭は圓滿にして長男良夫氏以下五男を惠まれてゐる。良夫氏は東京目白中學校に勉學中。

元郡會議員

東條良平

八幡町山木六五四

土地の草分けとして君が祖先は八幡神社創設に干與した一人であるといふ。既に二十代を閲するものの樣である。祖父並に父君は家運興隆に努力した人、今日町内有數の資產は當時に成したといふ。父君は德治郎氏と呼んだ。君は其長男として明治十年十月十八日を以て出生した。塾に學んで、中等教育を修了した。明治三十年中野鐵道隊に徴兵されたが、北清事變に出征して白色桐葉章を賜り、日露戰役にも動員されて奮戰し青色桐葉章を拜受した。在鄕するや公共事業に功勞し、大正十一年町會議員に擧げられ現に二期敏腕の譽がある。八幡五所漁業組合幹事等を兼ねて活躍してゐる。因に父君の米穀商を承けたが、君は醬油製造販賣に從事して繁榮するに至つた。令閨はま子氏との間には三男三女を擧げた。

町會議員

宇田川卯之助

八幡町八幡

縣社飯香岡八幡宮社司を拜命して君が信仰の生活はいよ〳〵清くけ高さを加へるのである。君は印旛郡旭村の出身として故樹左衛門氏の三男である。千葉中學校を中途退學したが、早稲田大學の前身東京專門學校に學んで卒業した。私塾の教員等を經て、千葉縣廳に入り屬官として三十年間精勤した。從七位勳七等に叙せられた。やがて現職に轉ずるに至つたものである。然して里人の敬慕を荷つてゐる古來著名の本社は八幡宿村及び五所金杉村、市原村の鎮守で、祭日は三月十五日、八月十五日、小祭十餘回ある。君が身邊を窺ふに足る。君が令閨は既に亡き人である。長男康幸氏は國學院大學出身の英才。目下家事に從事し君を扶くる功が甚だ多い。

八幡宮社司

内田羊之助

千葉市道場町八八一

村勢伸長時代の東海村長として活躍する君が信望愈々厚きを加へるものがある。君は明治十四年二月十五日、故謙吉氏の次男として出生。祖先は安房の里見家即里見義弘の傍系に出で、既に三十有餘代、分家後五代を閲すといふ。祖父は名主を勤めて苗字帶刀を許され後に戸長に就任し、父君も亦助役、村長と歴任した有志である。君は海上村高等小學校卒業後、姉崎町に約二ヶ年故根本七郎氏に漢藉を學び、更に上京して研學を重ねて秀才の譽を成し、明治三十七年歸郷して家業に入つた。現に地主として經營の宜しきものあり、令閨婦美子夫人の内助あり、長男朗吉氏外三女を惠まれ幸福である。その間收入役、助役、村會議員として村治に功勞する事多年、大正十四年現職を奉じ、村農會長、村信用組合專務理事を兼ねてゐる。

村長

里見吉彌

東海村海保一九四五

雄名を政界に轟かせた桑田民太郎氏は君が父君である。父君は當村收入役、助役、村長に歴任して村治に功あり、更に郡會議員、縣會議員として大功を謳はれた人。今は悠々自適風月を樂しむといふ。君は其長男として明治十七年九月一日を以て出生。千葉中學校出身にして識見卓拔、力量は早くから村民の畏敬する所であつた。家督を相續して大正十年村會議員に推され、更に村長に就任して大に村治を刷新した。又大正元年村信用組合を設立し農村振興に貢献し、組合長として現在に至る。其他縣信用組合聯合會副會長、郡畜産組合長等の現職に在つて敏腕を揮つてゐる。一方に地主として發展し、代々豪農として名を擧げた祖先を辱しめない。圓滿な家庭には要子夫人との間に長男浩氏外二男を擧げてゐる。

元村長

桑田良信

東海村海保二七一

至誠以て村治に貢献し、實に明治二十二年町村制施行當初から大正十四年滿期に至るまで多年に渉つて鄕黨の信頼を荷つたものである。その明治三十六年助役に推され、同三十八年村長に昇任され國事多端の折に功勞あり、勳七等に叙せられた。明治四十年村長を勇退して五井銀行常務取締役に就任し、大正十五年に至つた。又大正七年郡會議員補缺選擧の際推されて當選し鄕黨の輿論を代表して名聲の高きを加へた。其他公共事業に盡瘁する所が多い。君は文久元年九月一日を以て故市左衛門氏の次男として出生した。父君は名主及び組頭等に推された有志であつた。代々の農業を承け、地主として家運の隆々たるものを繼いだ。令閨をツヤ子夫人と呼ぶ。養子を迎えて老後を樂しんでゐる。

元村長

三橋和足

東海村島野

教育家として斯界に一異彩を放たれる君は慶應三年八月廿一日現所に生る。七郎氏の長男たり、小學校より優秀の成績にて師範學校に入り、卒業と共に東海小學校を初めとして五井、養老の兩小學校に二十一年勤續なしたるなり。模範教育家として尊崇さるゝなり。明治二十三年、六週間現役として兵事に盡し、除隊後は公共事業に盡瘁さるゝこと甚大、衛生組長、區長、消防部長、火防組合長、其他多數なり。亦大正三年に村長一期、耕地整理議員、檀家總代等勤められしが、現在としての要職は村會議員、漁業組合長、耕地整理議員等なり。實に樞要なる人物と謂ふべし。令閨ます子氏との間に一男四女を擧ぐ。長男俊郎氏は東京高等工業に、長女テイ子氏は女學校卒業後某工學士に嫁され、次女たけ子氏も某工業家に嫁さる。

村會議員

小出又作

千種村青柳一〇二八

中興以前のことは不明なれども、中興以後九代を閲したる當村に於ける代々の庄屋として其名を知られたる名主家なり。君は明治七年四月二日、現所に生を享けたるなり。庄吉氏の長男なり。當家は代々農を以て生業とせられ、父庄吉氏は村内の信望厚く、區長、村會議員其他の公事に盡瘁さるゝこと多かりき。君もまた父に劣らざる人格者として知られ、明治三十六年家督を相續なしたり。幼時小學校を當村に卒へ、八幡宿、縣立千葉普通學校、輔車學舎にて漢學を專念修められ、二十二歳にして役場書記を勤め、明治四十四年に到り村會議員として貢献され、大正八年收入役たりしも後助役に擧げられ引續き村長の要職と推されたり。君の母堂をつぎ子氏といひ、令閨やす子氏との間に四男三女あり。

村長

小出庄次郎

菊間村大厩一一三六

村内に最も古き歴史を有する伊藤家は舊家にして村内の草分けとして其名を知られたり。代々農を主とせられ、先代與惣治氏は公共事業に盡瘁さるゝ所甚大にして村内に信用厚き人なり。收入役として精勵され居りしが明治二十八年君の努力は遂に認められ、縣知事阿部浩氏より表彰さるゝ所となり。縣下に於ける模範たる君として謳はるに至れり。君は明治三年十月現所に生れ。故與惣治氏の嫡男なり當時學校を卒へると共に出羽守の侍講高柳邦氏に就きて勉學されたりと聞く。三十才にして區長、區會議員等に推され、其後村會議員村農會長として永く盡瘁され、大正八年郡會議員に擧げられ、郡參事會員となり、村長となり、郡農會代議員として貢献されたり。令室との間に二男四女を擧げらる、又君の令弟は松戸高女教諭なり。

助役

伊藤瀧藏

菊間村草刈

木津家は草刈に於ける草分けとして知らる。祖先に重郎右衛門と稱する氏ありて當家は代々其の名を引繼ぎたるものなり。先代台壽家氏は、市原郡市東村の伊藤家より養子せられ、當家に入りて村會議員村長等の公職を勤められ亦村長として町村政施行後五代目なりといふ。代々の名主家なり。當主は日本中學校卒業後、父業を補けられ父君の歿後は村會議員として引續き勤務され、大正十四年迄盡瘁せられたり。大正十五年學務委員として現任中なるが尚この間菊間村消防組第二部長として四ヶ年間盡力され亦用水總代、寺總代等公共事業に對する君の熱心は村民の深く感謝する所にして現在の地位に至れるなり。人生を支配せる或何物がなきしもあらざれども、君の個性が築きし現在ならざるはなし。令閨きく子氏との間に二女あり。

元村長

木津昇

菊間村草刈一九〇

敦厚恭謙の質、奥深精到の識、入りては後進を誘掖し、出でゝは工藝の進歩を計り名聲高く謳はれる者君ならん。君は嘉永六年八月を以て現所に生れ、故清次郎氏の嫡男なり。當家は水野藩士としての舊家にして代々里正を勤められたる家柄なり。明治八年改正塾に入りて測量及び製圖を學びたり。水野伯は君の作品の優秀なるに敬意を表し、絹布一匹を贈られしことあり。其後水野伯明親館に學び、明治十一年千葉縣廳庶務課に勤務せらるることゝなりたり。在勤の傍公共事業に對する氏の貢献は一方ならず。又水戸に赴きて愛生館を設置し、北越地方を漫遊し後區長となり。大正元年紛亂せる顯津村を治めて村長となり。郡會議員となり。亦日露戰役當時の村長として勳七等青色桐葉章を受くるに至れり。令閨との間に二男二女あり。

元村長

市川福太郎

菊間村菊間

徳川幕末時代に於て鷹庄役をなし、代々の名主家として人の知る所なり。故先代彌吉氏は村會議員其他公共方面に相當盡瘁されたる名士にして、君は明治廿四年七月十日を以て彌吉氏の長男として生を享く。明治四十四年千葉中學校を卒業と同時に千葉師範學校二部に入り、業卒へて東海小學校に奉職せられたり。後八幡小學校八ヶ年在勤なし、岩崎小學校に校長として榮轉、大正十三年菊間小學校長に轉任在職中なり。教鞭をとられる傍農業補習學校長、青年訓練所主事、青年團女子青年團指導員等の要職にありて奔走されつゝあり本郡教育界の重鎮として斯界に一異彩を放つ君は亦社會改革の第一歩は純眞なる小學教育にあるを說かれ、教訓を示されつゝあり。令閨は一男一女の慈母として知られ、團欒なる家庭を營まる。

校長

山越毅一

市原村市原九二

君の父を修平氏といひ、明治七年八月十三日を以て現所に生れたり。小出家は菊間に於ける舊家にして草分けなりといふ。代々の名主役を續出し、約二十數代を經たる帶刀御免の家柄なり。先代は戸長として永く盡力され居りしが、其後最初の縣會議員として縣政のため村内のために盡される所細大枚擧にいとまあらずといふ。當主は普通學を修められて後、濶大なる舞臺に立つて雄偉なる活劇を演ずるは青年期にありと悟り東京に出でゝ美術學校に學ばるゝこと幾星霜日本畫を修められたり。其後日露戰役に出征して功あり、歩兵中尉從七位勳六等功五級を賜はる。凱旋後軍人分會長として十ヶ年に及ぶといひ。學務委員、村會議員等も勤めらる。令室よし子氏は四女の慈母として知られ、長女次女は他家に嫁し、三女四女は在學中なり。

元軍人分會長

小出魯一郎

菊間村菊間三四六二

時の政權を專制せし足利義詮が、圓かなる月と日を送りたる地千葉縣千葉郡生實濱野村に篠崎彌兵衛氏の三男として生る。當地小學校を了へると共に千葉中學校入學、明治二十六年同校を卒業するところとなりて、翌二十六年根本家へ養子として入籍せられたるものなり實家及養家も代々農を以て主業とし、舊家として知られたる所なり業餘、公共事業に盡瘁さるゝ所甚大にして、村内の信任厚く、三十一才にして村會議員の重椅子に附かれしなり、又八幡神社の氏子總代となり、中川堰水利組合會議員（菊間區八幡町用水）として偉功を奏し、村利村福のために貢献されたり。家庭には二男二女及令孫二人あり、長男は千葉中學卒業家庭にあり、次男は帝大經濟科出身、又長女二女はいづれも千葉高女出身にして家庭にあり。

村會議員

根本三郎

菊間村菊間一三〇九

君の生家高梨家は十五代連綿たる家系を鮮かにし、代々帶刀御免の家柄なり。現に千葉郡椎名村の屈指の豪農として著名なり。君の養家足立家もまた中興以來の名主家として帶刀を許され、古き歴史を飾られつゝあり。養家の先代は曾て村長及村會議員其他の公職に盡さる所多くして村民の感謝に輝く人たり。明治三十五年君は足立家に入籍なし、其後區長三期村會議員を二期等を初め各種の公共事業に盡さるゝこと枚擧能はず、現村會議員學務委員等の要職にあり。君の實父を來藏氏といひ其三男なり。明治三年六月を以て千葉郡椎名村刈田に生を享けしなり。君の實兄は元縣會議員にして、千葉海岸の埋立を初め其他に業跡あり又君は植栽業に深い趣味をもたれ、植栽事業に精勵されつゝあり。令閨との間に二男二女ありて平和なり。

村會議員

足立大三郎

菊間村高島

道は一なり、之を行ふて己に得る、之を德と言はんか。己れに得る無うして務めて人に衒示する、之を僞善といはん。隋珠は尊にして魚目は賤むべき哉。君の性熱誠にして殊に公共事業に對しては人々の驚嘆する所なり。明治十一年十月を以て菊間村大前に生れたり。實父を小出龜吉氏といひ、その二男にして後勝家へ養子として入籍せしものなり。勝家は菊間村の草分なりとあれども遺物記錄なきため判明せず、然れども墓標に正從と稱する年號を彫りたるを以つても舊家なることを物語るものなり。君の生家も村内の草分けにして知られたり。努力精勵、君の至誠の認めらるゝ所となり青年團長區長代理消防小頭等を經て村民の懇望に依り村會議員に擧げらる、時大正十四年なりき。令閨たけ子氏との間に三男三女ありて家庭平和なり。

村會議員

勝幾藏

菊間村菊間二三五二

資性温厚にして謙讓を自ら持し、誠實を以て道となし、勤勉を以て緯となしてことを創まは天豈之を賞し、之に授けずんばあらざるなし。君は卽ち其人として世に知られたるなり。慶應三年二月を以て現所に生れ、矢一郎氏の長男なり。初代の小學校に學びて後菊間藩士につきて漢籍を學ばるゝこと終日、學成りて後は父を補佐して、農事に盡力する傍、專ら村内のために奔走され、區長、總代、用水工事係等區の公共に盡さること幾多、大正十四年區民の推選により、村會議員に推され、引續き現任中なり。君が現在の地位に推されしも只勤勉と努力に依るものなり。天は自ら扶くる者を扶く、と古人は能くいひたる哉。令閨さん子氏との間に三男二女あり。長男及三男は自家にて農にいさしまれ、次男は分家なし、長女は他家に嫁されたり

村會議員

須藤勘藏

菊間村古市場一七一

明治二十三年一月、君は現所に生を享けたり。故長藏氏の三男なり。君生地小學校を卒業後千葉中學校に入り、卒業すると共に千葉師範學校の二部に入學したり。明治四十三年卒業する處となり、黎明曙光を浴びて本村小學校に教鞭をとられたるなり。熱心なる教育家として勤續せらること十ケ年、大正八年學校を辭して家政を勵まれたり。家業の傍復又村内公共事業のため、教育のために盡瘁さるゝ所數知らず、村民一同の懇望によりて村會議員に推擧せられ大正十五年より現任中なり。亦區長として引續き二期現任中なりといふ。實業家として教育家として學識あり才能あり、加ふるに異常なる手腕を有し熱烈なる仁俠の氣慨を有する君の如きは實に稀に見るの偉傑として推稱せざるべからざるなり。令閨は賢婦人として知られたり。

村會議員

魚路一郎

菊間村草刈九八二

企畫益々力め即ち五井町の大發展を期して名町長の令聞高き君は、又郡町村長會長、町農會長、郡農會議員等を兼ねて敏腕を揮つてゐる。文久元年一月二十日を以て故五平氏の長男として出生。小學校卒業後は私塾に通學して漢籍を修めた。早くから人材を登用されて役場書記拜命、つゞいて君塚浦漁業總代、郡漁業組合聯合會評議員、水産組合評議員、君塚浦漁業組合理事、同組合長、町會議員等に歷任し、大正八年現職を奉じ、大に信望を加へた。その間寄附行爲に依つて受賞數回に及んだ。さて、祖先は代々名主を勤め苗字帶刀御免の家柄、父君は組頭を勤め隨田並に發魚場を設置して發展した。大正六年の海嘯以降中止し現に君は地主として繁榮してゐる。令閨とし子夫人。長男利定氏は縣土木技手。次男孝氏は東京市吏員。

町長　齋藤貞藏

五井町君塚六三二

功績顯著なる五井町主任助役として君が聲望既に高きものがある。大正七年現職を奉じて敏腕を揮ひ學務委員、五井町漁業組合總代、郡水産組合會議員等を兼ねてゐる。前には岩富信用販賣組合を組織し其組合長として十五ケ年其發達に貢献した。さて、君は明治八年六月十六日を以て故市太郎氏の長男として出生した。中興以來四代農業を經營した。亡父は專念家運の興隆に奮闘、今日の盛大を成した地主として經營宜しきを得てゐる。鄕校を卒業して後は東海村の井口槍四郎氏に就いて漢籍を學んだ。やがてみね子夫人を迎えて相和し圓滿な家庭をなした。今は亡き人であるが内助の功が多かつた。四男二女の賢明な成人を見、長男實氏は千葉中學卒業後一年志願兵として入隊少尉に任官した。現に九十八銀行在勤。

助役　時田常次郎

五井町岩崎四二八

幾多の財政問題に敏腕を揮ひ、收入役として將來を深く囑望さるゝ君は、大正十三年九月現職を奉じ又早くから農會總代、耕地整理組合長、在鄕軍人分會長を兼ねて現に貢献大に力めてゐる。明治十九年七月八日を以て故太吉氏の長男として現所に出生した。父君も公共事業に功勞の多かつた有志、區長等を勤めたといふ。當家は町内に由緒正しき家系を傳へ、元は高津氏を稱したが、曾祖父三藏氏の頃に現姓を名乘るに至つた。薗幕時代に於ては代々名主を勤め十五代ひき續いたといふ。君は鄕校を卒業して上京し錦城中學校に學んだ秀才。歸鄕して家政に入り、現に貸附農として發展してゐる。その間一年志願兵として佐倉聯隊に入隊した。内助の功多き令閨との間に長男吉寛氏外一男二女を擧げた。幸福な日を送迎する家庭。

收入役　津根三造

五井町五井五〇〇六

悠々自適する君が前半生には、光輝赫々たる功業の物語がなければならぬ。即ち、文久二年二月二十日木村善左衛門氏の四男として郡内市東村に出生。父君は戸長等を勤めた名望家。千葉中學校創立と共に入つて學び、卒業後も岡本寛法氏に就いて漢籍を修めた。二十才にして當家に入り先代の養子となり、二十五才にして家督を相續した。養家は代々農を以て繁榮したが先々代より醬油釀造及質商を經營して來たが、君に至つて文房具商として農を兼ねてゐる。その間役場筆生より書記、助役、町長、町會議員、學務委員、區長其他の公職に就いて献身努力し町民の畏敬を集めたのである。因に令閨かつ子夫人との間に四男を擧げた。長男一郎氏は日露戰役に名譽の戰死を遂げた、勳八等功七級。四男清氏が相續者。九十八銀行在勤中。

元町長　相川新左衛門

五井町五井五〇九一

優良にして好評高き蠶種の製造を業として、君は勤勉を以て知られ貸附農を兼ねて家運隆盛。魚業組合總代、君塚區長、町會議員の公職を帶びて盡瘁益々力めてゐる。前には二十五才の頃から五ヶ年役場書記を拜命して敏腕を謳はれた。明治元年四月十六日故池田久平氏の男として出生。小學校卒業後八幡川上大二氏に就いて三ヶ年修學。二十三才にして當家に入り先代正吉氏の養子となつた。正吉氏は區の總代、區長、町會議員等に推された。實父も村内の有志として活躍した人。當家は土地の草分けとして知られてゐる。令閨は既に亡き數に入つた。長女たけ子氏に養子金司を迎えて圓滿な家庭を營んでゐる。金司氏は縣產業技手として敏腕の譽が高い。夫妻は既に二男を擧げてゐる。君の趣味とする所は盆栽園藝に親しむ事。

町會議員

佐久間周次

五井町君塚五八五

何事を計畫するにあたつても、先づ第一に自己の力量をはかり、次に畫策をなし、第三に誰と協力すべきかを考へねばならぬ。自治體は其の完全な組織である。その運用が果して宜しきを得てゐるであらうか。五井町政に於ける君等の活躍は誠に尊敬すべきものが多い。君は現に町會議員、町農會總代、岩見野區長、五井市原耕地整理組合會議員、區衛生組合長、水神社氏子總代として百方奔走盡瘁してゐる。前には青年團支部長、消防小頭、同部長　第一回第二回國勢調査員等に就任した。さて、君は明治二十三年六月三十日生、故藤吉氏の長男。鄕校を經て私立飯岡中學校の出身。一才にして父を失ひ、又幾何もなく母に先き立たれた不運の中に、健氣な祖母の手に愛育された。今は令閨みさ子夫人との間に二男四女を擧げた地主。

町會議員

細野保一郎

五井町岩見野四九二

生きてゐるといふ事は天の惠であるが、しかし善く生き得るのは、やはり自分の力だ。それは平凡であるだけに見のがされてゐる眞理だ。して見れば、生きる第一歩として其心身の健全性を試みねばならぬ。公共的活躍をそれと見る事は許されるであらう。君を公的に私的に善く生き得た一人として擧ぐる事は不當でない。現に町會議員漁業組員理事、稻荷神社氏子總代等を兼ねて功勞が多い。前には在鄕軍人分會長として信望を荷つた。明治三十一年軍籍に入り日露戰役に出征騎兵軍曹に昇進勳七等に叙せられ、功七級金鵄勳章を賜つた。二男一女を擧げた。長男達生氏は家業に勤勉。さて君は現に町會議員、區長として公共事業に貢獻してゐる。前に區長代理、國勢調査委員、其他に就任して信望を厚うした有志。（電話七八番）

町會議員

池田睦三

五井町君塚九二五

神は生命を造り人は運命を造る。刻苦精勵君は自ら幸福を開拓した人。明治五年十月二十日を以て故龜八氏の二男として長生郡長柄村に出生した。實家は本内の舊家に數えられてゐたが、君は早くから自立自營を志し、遂に分家を興し、今日の盛大なる呉服太物商を經營するに至つた。其間の君が事業は以て後進の範とするものが多い。志を立てゝ鄕關を去り、八幡町村田商店に入り現業を實習する事實に十三ヶ年、確信を得て呉服行商として二ヶ年奮闘した。二十五才にして現所に開業したといふ。内助の功多き令閨をはま子夫人と呼ぶ。二男一女を擧げた。長男達生氏は家業に勤勉。さて君は現に町會議員、區長として公共事業に貢獻してゐる。前に區長代理、國勢調査委員、其他に就任して信望を厚うした有志。（電話七八番）

町會議員

風戸三藏

五井町五井五一一三

上宿區長として君は多忙な商務の間にも奔走斡旋を怠らない。漁業總代、市原繭市場代議等をも兼ねて功勞した人である。實業界の逸材にして、角屋と號し、大正五年乾海苔問屋を創業して發展した。既に料理店、繭仲買を兼ねて繁榮を極めてゐる。明治二年七月七日を以て故立野蕃八氏の男として町内平田に出生した。二十一歳にして當家に入り故與左衛門氏の養子となつた。當家は土地の草分の一に數へられ農家として先代に至つた。君は雄躍を期して穀物商製糸業等に進出したが、未だ開運に至らず、刻苦精勵、遂に目的を達成し得たのである。内助の功多き令閨とよ子夫人との間には二男四女を擧げた。長男與吉氏は家業に熱心。次男信夫氏東京在住。長女はる子氏は嫁して東京、次女みち子氏は家政に當り、他は高女に在學中。

區長　伊藤芳太郎
五井町五井二八九二

遊覽の都士人は、君が經營する旅館壽司屋に一泊の房總情調を樂しむ事を忘れないであらう。即ち縣下有數の繁榮を極め、料理業を兼ねて益々顧客の好評を博してゐる。驛前に支店（電話七三番）を開設して經營の宜しきを見る。かくて前には五井料理旅館組合幹事として業界に貢献した。明治五年六月二十八日を以て故發七氏の長男として出生。鄕校を卒業して後も漢學を修むる事多年、やがて家業に入り父君を扶けて現業に精勵したのである。父は町總代等を勤めて公共事業に盡瘁した人。明治廿八年逝去に依つて君が家督を相續するに至つた。令閨みつ子夫人との間に長男準一郎氏外二女を儲けた。準一郎氏は家業に熱心してゐる。さて君は區長代理として十四五ケ年功勞し、現に下宿區長に進んで熱誠自治に貢献してゐる。（電話一四番）

區長　時田祐次郎
五井町五井二七八三

公衆保健の爲に浴場の施設は重大なる社會政策と言はねばならぬ。君が經營にかゝはる浴場の好評高き所以は、實に其識見と才能の顯現なるかの感を深うする。君は明治四年十一月、父君の二男として出生。小學校卒業後は、自立自營の日を樂しみに父君の業を扶けてゐた。現業は父君の開業大に發展するに至つたもので、君が二十二歳にして之が一切を繼承する所となつた。一方に研究深き蔬菜栽培に進出して成功し、今日の隆運を興したのである。かくて前には五井町浴場組合長として現に五井町野菜出荷組合長として同業間に功勞が多く信望の原きを加へた。又第二回國勢調査委員を拜命した。現に十四軒區長として貢献に力めてゐる。さて、令閨つな子夫人との間に三男二女。長男與次氏は家業に入り勤儉。既に一男二女の嚴父。

區長　永野嘉吉
五井町五井五〇二

隆々たる木材商として君が經營は誠に其宜しきを得てゐる。既に四代現業を以て繁榮を重ね來つたといふ。明治十二年六月六日を以て故金七氏の長男として出生した。父君老齢の爲に令姉よし子氏に養子平治郎氏を迎えて家業に當らしめた。君は小學校を卒業するや精勵現業に從事したのである。令姉夫妻の後を承けて營業を繼續し、今日の發展を遂げたものである。その間公共的事業に貢献し、青年團長、消防部長、國勢調査委員等に推され、現に出津區長として町農會議員として信望の厚きを荷つて活躍してゐる。さて令閨よね子夫人。長男金平氏は東北帝國大學に進み、將來を嘱望されてゐる俊秀。長女とし子氏は千葉高等女學校卒業同裁縫科に、次女はま子氏は千葉淑德高等女學校に在學何れも才媛。（電話一〇四番）

區長　濱田金太郎
五井町出津二五

自己を人類の爲に有利に働かすことはあらゆる人間の義務である。君は玉前區長として功勞多く、信望の厚きを荷つてゐる。君は温厚篤實の人、自己の功業に就いて誇る所なく尙他日の大成を期して語らない。明治十四年五月二十八日生、富吉氏の長男である。父君は區長、町會議員、漁業組合理事等の公職に就いて敏腕を謳はれた。今や君が活躍を後見して、而して樂しんでゐる。祖父新五郎氏は一家を興して染物業を經營した。即ち三代の當主として君が斯業に名手の譽高く、顧客の信賴益々加はるものがある。鶴壽堂と號してゐる又農業を兼ねて家運盛大。家庭は圓滿にして、兩親に仕えて孝養至らざるなしと。母堂をけん子氏と呼ぶ。令閨をしゆん子夫人と呼ぶ。才色兼備の四孃を擧げた。長女いち子氏は既に家政に入り熱心。

區長　白井房吉
五井町玉前七七

眞に有福にならうと思ふならば、貨殖を努めずして、むしろ慾望を制限すべきである。何となれば貨殖上の富は單に剩餘價に過ぎないと言ふばかりでなく、卑下すべきもので、その所有者にとつてよりも之を輕視するものゝ方にむしろ價値がある位なものである。それに比して、不朽の財寶とすべきは君の如き自治の功勞者の名譽でなければならぬ。現に岩崎區長、稻荷神社氏子總代として信望が厚い。前に農會總代、漁業組合幹事、區共有委員、區長代理、區長として熱誠以て貢献した。明治八年三月二十五日生、故豊次郎氏の長男令閨のぶ子夫人を迎えて琴瑟相和し、圓滿な家庭には長男要氏、長女とみ子氏を擧げた。要氏は近衛輜重大隊出身、在鄕軍人分會役員。家業に入り蠶業並に貸附農として經營大に力めてゐる。

區長　鎗田元吉
五井町岩崎七二四

戰場の功は花々しい。男子は一氣之を顯つて勇奮敵戰する。しかし大丈夫の後に更に大丈夫を要するや勿論である。それに似てゐるのは立憲政治に於ける輿論の力である。地方自治に於ける有志の活動は、公明なる政治に貢献する所が多い。君が功勞はこの意味にも甚大と言はねばならぬ。現に村農會總代、五井漁業組合幹事の公職を帶び、前には區の共有委員、區長代理等として敏腕を揮つた。君は明治十二年十一月五日を以て故善八氏の長男として出生した。小學校を卒業するや父君を扶けて家運の興隆に熱心した。即ち貸附農並に漁業を經營に成功して今日に及んだのである。令閨みよ子夫人に內助の功が多い。長男善五郎氏外六男一女を擧げた。善次郎氏は君の片腕として勤勞を惜しまぬ有爲の青年。

有志　牧野善造
五井町岩崎三八一

精神文化の向上は、日常生活に清新を日一日と加へて行く。卽ち物質文化との交響樂である。それはあらゆる方面に表現されてゐるが、例へば、近時果實嗜好の風も文化生活上に現れ來つた一つである。而して房總は地の利を得て果樹栽培に發展する者の多きを加へてゐる。君は斯業に精進して篤農の譽が高い。かくて產業出荷組合長に推され、開發指導、福利增進に貢献してゐる。明治二十八年二月二十日を以て故巖氏の長男として出生した。當家は村上の地に鄕士として繁榮し、代々諏訪神社の禰宜を勤め、君に至る十四代三百五六十年連綿たる家柄。君は千葉中學校出身。青年團長、消防小頭等を經て現に區長として活躍中。因に令閨八重子夫人との間には三男を惠まれて家庭圓滿、和氣靄々としてゐる。

區長　朝倉豊
五井町村上六三五